

レポーター：こちらの絵はなんだかとても不思議な感じがする絵ですね。

学芸員：こちらはインドのタンジョール地方の王様を描いた19世紀初頭の作品です。

レポーター：なんでこんなに不思議な感じがするのでしょうか。

学芸員：そうですね、インドではですねもともと細密画の伝統がありまして、たくさん描かれていたんですけども、この時期は細密画に西洋技法がはいつてきて、それがミックスされた様子が伺われる作品です。基本的には平面的な作品なんですけども、この椅子のところだけですね遠近法が使われてて、奥行き感が出されているんですね。

レポーター：確かに見えますね、奥行き感を出そうとしている所が。

学芸員：平面的なものとお行きが組み合わさって、不思議な雰囲気になっている作品ですね。

レポーター：この柱も奥行きをだそうと、この辺は奥に入っているように見えるんですけど、この辺の柱は手前に見えるような。

学芸員：そうですね、細密画はこういう枠をもともと描くんですけど、ここではその枠を柱が飛び出して描いておもしろさを出しているんだと思うんですけど、それによってこっちの柱との違いがあって、でこぼこした感じがしますね。

レポーター：インドの伝統的な技法ってどういったところなんですか。

学芸員：これもそうなんですけど、画面が小さくて描きこんで、細い筆で描くんですね。なので細かい模様とかも全部細かく描かれています。

レポーター：王様がかけている椅子とかもすごく細かいですよ。

学芸員：すごく近寄ってみないとその細かさがわからないですね。

レポーター：お二人とも真正面は向かないんですね。

学芸員：だいたい細密画の伝統では人物は横向きで描かれます。

レポーター：インドの特徴になるんですか。

学芸員：そうですね、インドの細密画ではよくそういうふうに描かれますね。

レポーター：ここに描かれている人ってどういった人になるんですか。

学芸員：こちらはインドのタンジョール地方というところの王様とその息子さんが描かれています。

レポーター：タンジョール地方って？

学芸員：当時ですね、インドはムガル帝国が支配していたんですけども、地方ではたくさん小さな王国が林立してあって、そのうちの一つの国ですね。

レポーター：そうなんです。手に持っているのってなんなんですか？

学芸員：だいたいその細密画でですね、王様はかならず何かですね、花であったりクジャクの羽みたいなものを持って、描かれることが多いんですね。

レポーター：何か意味があるのでしょうか？

学芸員：これが王様ですとかを表すものだったと思うんですけど、こちらの人は持ってないですね。

レポーター：何かを持っている人は偉い人と表すんですね。絵一つでその当時の様子だったりだとか垣間見れるのが面白いですね。

学芸員：そうですね。